

◆ 秋空に想う ◆

手元に1冊の分厚い図録がある。

タイトルは『新海誠展 「ほしのこえ」から「君の名は。」まで』。

「新海マジック」とも表現される新海誠監督の独特の筆遣いに触れてみたくて、2017年の11月から1ヶ月という短い間、国立新美術館で開催されたこの図録と同じ名称の展覧会で買い求めたものだ。



特に空の描写は印象的だ。例えば『雲のむこう、約束の場所』で描かれる廃駅舎の背景の雲（多分、夏の入道雲だ）や、『秒速5センチメートル』の第2話「コスモナウト」での主人公の心象風景を写し込むがごとく光と影が錯綜する夕暮れ。展覧会ではこんな原画がたくさん展示され、時を忘れてその魅力を味わった。

ところで秋の空は何ともいえず魅力的である。『枕草子』の「秋は夕暮れ…」を持ち出すまでもなく、秋の夕暮れの儚さをともなう何ともいえない風情ももちろんであるが、その凜と高い日中の清々しさもなかなかいいものである。

『日本人の好きなもの』（NHK放送文化研究所世論調査部 2008年）によると、日本人の好きな季節の1位は春（69%）で、次いで秋（55%）（複数回答）。細かく見ていくと、この傾向は、男女とも60歳以上の方に強く、若年層ではそれほど好きな月の差異は見られない。いずれにしても、四季があることでいろいろな感情を思い起こすことができる幸せを感じてみたい。

今年の県高等学校総合文化祭は、COVID-19対策のため、「総合開会式」と「音楽会」を中止し、「演劇祭」も無観客での開催という苦渋の選択をせざるを得なくなり、高校生の活躍の場を制限した中での「美術展覧会」のみが[来月から開催](#)となる。その意味でも、[本校生の作品](#)も展示される作品一つ一つのもつ「重さ」、そしてその作品を作り上げた「感性」や「時の流れ」といった機微を、澄み切った秋空とともに感じていただければ幸いである。